

ひとみ

令和8年1月16日
さくらの学び舎
世田谷区立笹原小学校
校長 吉田健二
目の教室 学級通信



3学期もよろしくおねがいします



冬休みを無事に過ごした子どもたちが元気よく、目の教室に戻ってきました。新年を迎え、気持ちも新たに、思い思いの3学期にがんばりたいことや進級・進学への目標を掲げています。

さて、おかげさまで2学期は、学芸発表会、目の教室紹介集会と、目の教室や子どもたちのことを知っていただく機会に恵まれました。集会では、本校4年生と共同で作った「目の教室紹介ビデオ」を全校で視聴しました。また、通級児童の中には、在籍学級で見ていただく機会もあり、本当にありがたく思います。関わり、知ること、尊重し、共に学ぶ仲間としての意識が芽生えます。とても貴重な大切な機会となりました。

12月には1人3分間のプレゼンテーションを行う、「目の教室発表会」がありました。子どもたちは、個性豊かな発表をのびのびと行い、発表するのも聞くのも、緊張しながらもとてもうれしそでした。いつも子どもたちの成長を温かく見守り、ともに喜んでくださるみなさまには、感謝の気持ちでいっぱいです。

3学期も変わらずの、ご理解、ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

目の教室では、こんな学習をしています

【視覚補助具・視覚機器】*日常的な道具の選択、活用、カスタマイズ 単眼鏡(遠用レンズ)、拡大鏡(ルーペ・近用レンズ)、タブレット端末・アプリ、拡大読書器 デジタルカメラおよびタブレット端末のカメラ機能の活用 / 拡大図書、拡大教科書等の活用	
【目と手の協応・巧緻性】見て手を動かす・道具を使う*生活にかかわるあらゆる場面を活用。 道具:はさみ、カッター、のり、セロハンテープ、絵の具、金づち、のこぎり等 楽器:鍵盤楽器、リコーダー等 / 裁縫道具:針、糸、ミシン等 観察・実験器具:顕微鏡、アルコールランプ、回路等 折り紙、ひも結びなど	
【視知覚】見て分かる・目で追う・見比べる ビジョントレーニング、点つなぎ、観察、図形の判別・作図、音読、迷路、定規・温度計・ばねばかり・時計やグラフの目盛りの読み取り、漢字の読み書き、地図の読み取り、間違い探し、ペグさし など	
【運動】 運動全般(体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動等)における困難および経験不足の解消	【自己理解】 発達段階に応じた自身の見え方等の理解および自己受容、援助の依頼、合理的配慮の求め方

上記は、一例です。個々の見え方やケースに合わせ、在籍校、家庭と連携し、「自立活動」の指導を行っています。この他に、月1回程度、通級児童全員が集まる「集団活動」もあります。

*詳しくは、本校HP「学校日記」→「目の教室」をご覧ください。→

活動の様子を載せています。

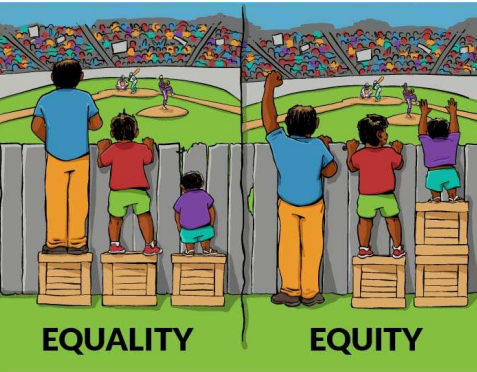
*iOSアプリ「ロービジョンシミュレーター」では、見えにくさの疑似体験ができます。



「平等」と「公平」～合理的配慮について～

国連の「障害者の権利に関する条約」の締結に向けた国内法制度の整備の一環として、全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とした、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が、令和3年に改正され、令和6年4月1日に施行されました。(参照:内閣府HP)合理的配慮の提供が義務となるのは、企業も同じで、私立校の入試、各種資格試験、模擬試験においても行われます。見えにくさがあると、活字を読んだり、資料を読み取ったりする際、視覚補助具を必要とするため、時間がかかります。同じスタートラインに立ち、本来の実力を発揮するためには、補助具の利用、用紙の拡大、時間延長などが必要になります。目の教室の児童、卒業生にとっては、大変、大きなことです。

さて、以前、慶應義塾大学 教授 中野泰志先生をお招きし、卒業生も含めた目の教室の子どもたちと保護者を対象に、合理的配慮についての学習会を行いました。その際、教えてくださったことの中に、「びょうどうってどういうこと?」という内容がありました。下の図を見て、みなさんも考えてみてください。



Artist: Angus Maguire."
(EQUALITY:平等、EQUITY:公平)

身長が違う3人がフェンス越しに野球観戦をする場合、
「同じ高さの台」をもらうのが平等でしょうか、
「同じ目線になる台」をもらうのが平等でしょうか。

どうです? 右の絵、高い台をもらっている子は「ズルい」ですか? そんなことは、ありません。どの人も観戦できるようにするためには、それぞれの身長に合わせた台が必要です。これが、合理的配慮の考え方です。目の教室の子どもたちも板書を見るために学習用タブレット端末のカメラ機能や単眼鏡が必要です。必要と分かっているのに、「自分だけいいのだろうか」「みんなに悪い」と感じ、合理的配慮を受けることを遠慮してしまいがちな目の教室の子どもたちは、お話を聞き、胸のつかえが取れ、安心した表情をしていました。

時間:よく見るためには道具が必要です。狭い範囲を移動させて見るため、全体把握に時間がかかります。

座席:前方であれば、道具を使わずに済むことがあります。時間も減り、目の疲労も減らすことができます。

拡大:目を近付ける、道具を使う、デジタル化する、拡大コピーをするなど、様々な方法で拡大します。

*日常的に受けている配慮が実績となり、入試の際にも合理的配慮を求めることができます。

「読書のカタチ」は選べます。～区立中央図書館・桜丘図書館との連携～

誰だって、面白いと思える本と出会いたい。ですが、目の前まで本を近付けないと思うように読めなかったり、拡大鏡(ルーペ)や拡大読書器などの視覚補助具が必要だったり、目も疲れれば、肩もこる。これでは、どんなに面白い本でも手に取るのが億劫になってしまいます。そこで、目の教室では、読書バリアフリーを実現すべく、区内の桜丘図書館、中央図書館との連携を進めており、ブックトラック2台分の目の教室の子どもたちの見え方に合わせた本、や朗読CD、デージー図書のディスクやデータなど、提供いただいています。11月のおはなし会も恒例になり、今年のお話「くまさんのおでかけ」は、子どもたちの定番になりました。さて、デジタル録音図書「デージー図書(DAISY: Digital Accessible Information System)」の活用も進んでいます。中央図書館や国立国会図書館よりデータ提供を受け、iOSアプリ「のじぎく」シンプル デイジープレイヤー、「UDブラウザ」で活用しています。区配付のiPadでも読め、子どもたちも大変喜んでます。自分の見え方に合う「読書のカタチ」を探す旅は続いています。

- ・文部科学省「誰もが読書ができる社会を目指して～読書のカタチを選べる「読書バリアフリー法」～」
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01304.html
- ・文部科学省「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアムについて」
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01809.html
- ・「学校図書館等における読書バリアフリーコンソーシアム」
<https://accessreading.org/conso/>

